

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070500667		
法人名	医療法人 小倉蒲生病院		
事業所名	グループホーム しあわせ		
所在地	福岡県北九州市小倉南区徳力6丁目1-25		
自己評価作成日	平成22年10月19日	評価結果確定日	平成22年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 管理者が看護師であり医療面の取り組み、薬や症状の観察が出来る。1ユニットで入居者とのコミュニケーションが多くとれる。住居が2階だが身体面、精神面での観察が必要な時はリビング横で集中的に観察している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社員寮が改修された建物は地域の中に違和感なく溶け込んでおり、開設して11年目を迎えている。「認知症疾患医療センター」が設置されている母体医療法人や、かかりつけ医との充実した連携、また管理者の母体医療機関での豊富な経験を日々の健康管理に活かし、それぞれのケアの方向性についても常に根拠を求めながら、あくまでも日常の普通の暮らし、その中でのふれあいを大切にした支援に取り組んでいる。ホーム前の公園では子供たちとの交流が育まれ、ホームにも立ち寄ってくれるようになり、近接する地域交流センター・市民センターでも地域住民との交流の機会がある。また町内会長の積極的な協力を得て、災害時の協体制作りにも取り組んでいる。居室は二階に位置するために階段での移動となり、また玄関にも一般家庭同様の段差があり、生活動作と機能活用が必然的に結びついている環境の中で、入居者それぞれの個性を大切にした支援が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月13日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々職員に理念について話し、又、理念に基づいた関わりをしている。	法人理念に基づき、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、グループホームとしての独自の理念・基本方針が示されている。また、年間目標も掲げ、ミーティング等において振り返る機会を持ちながら、共有・実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議を通して行事への参加、夏祭り、文化祭、クラブの見学や参加をしている。	ホーム前には公園があり、また近隣には市民センターや地域交流センターもあり、日常的に地域住民や子供たちとの交流の機会がある。町内会長の積極的な協力を得て、地域行事に参加したり、災害時の協力体制の構築に一役買ってもらっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通して地域交流センターでのクラブを見学したり参加したりして支援の方法を提供している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議の中で非常時の対応について話し合い協力を得られるようになった。	定期開催されている運営推進会議には、入居者の方々も参加しており、議事録には個々の発言も記録されている。町内会長より地域の行事案内等、情報提供が行われている。災害対策についての話し合いも行われ、連絡網の整備や協力要請等、実践につなげる取り組みが確認できる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月 / 1回の運営推進会議で地域包括センター職員と話し合い他のグループホームの助言など頂いている。	地域包括支援センター職員や行政担当者の出席する交流会に参加し、意見交換や情報共有に努めている。近隣には市の地域交流センターもあり、気軽に訪れることができる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加して勉強している。身体拘束は絶対行わない事を日頃より話し合いをして防止している。	外部研修への参加や内部での研修計画に盛り込み、職員の意識を高めるよう取り組んでいる。ミーティングや勉強会において、個別の行動の理由や排泄との関連性等、根拠を求めながら、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠しておらず、寄り添うケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加して勉強している。些細なことでも虐待に値する事を日頃より常に話をして防止に努めている。		

福岡県 グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の研修に参加したり母体病院である法人での研修会やホームでの勉強会で認知症高齢者の権利に関して、その重要性を理解するために参加している。	権利擁護に関する外部研修に参加し、ホームに持ち帰り、職員全員への周知を図っている。成年後見制度や日常生活自立支援事業について、資料を整備し、状況に応じて家族等への説明を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要説明事項を用いて不安、疑問点がないように確認しながら時間をかけて行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談のポスターを玄関や食堂等の見やすい位置に掲示し意見箱を設置している。又、無記名での満足度調査アンケートをとり運営に反映している。	毎月の支払い時には家族に来訪していただき、日々の状況を報告するとともに、意見や要望を伺っている。無記名でのアンケート調査を実施し、家族意見の収集とともに、運営への反映に努めている。	家族との連携を、更に深めていきたいとの意向もあり、家族会の発足等に向けた働きかけ、また家族の方々の主体的な関わりにも期待します。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回のミーティングを行っている中での意見を実践し活用している。	毎月、全職員を対象とするミーティングの中で、活発な意見交換が行われており、業務改善等につなげるよう取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準、労働時間については母体病院が行っている。入居者担当性を取り入れて向上心がもてるようにしている。。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	母体病院が性別、年齢など関係なく募集採用している。自分の為になることは優先させている。	母体医療法人としての採用となり、年齢や性別による排除は行っていない。それぞれのこれまでの経験や職歴を活かせるよう配慮し、また外部研修等への積極的な参加を促している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加しミーティングで報告意見交換など行っている。	身体拘束や高齢者虐待防止、権利擁護、認知症について等の研修を通じて、入居者の人権尊重についての意識を高めるよう取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体病院の研修外部の研修に参加、ケアに対して助言などする。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りの勉強会、同業者交流を行い参考になる部分は取りいれている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りながら本人が思っていること、不安な事、要望などを聞き本人が楽しく安心できる関係作りをしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前と入居時に面接し困っている事不安、要望を傾聴いつでも相談するよう助言している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面接し必要としている支援など主治医やPSWなどとの連携をとり対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話の中で言葉の意味を教えて貰ったり調理方法について助言して貰ったりと参加して頂いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と同居できず遠方に家族が毎月1回母親の面会に来られ家族に本人の生活状況で安心して頂き本人には家族の面会で喜んで頂く。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、外出、電話を自由にして頂いている。	家族や知人とふれあう時間を大切に支援している。馴染みの美容室等を継続して利用できるよう配慮している。	

福岡県 グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	視力の弱い入居者には孤立しないように声 かけを行い仲良しの入居者が段差や食事 時同行をして守る。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当グループホームで対応できず退居された 入居者に対して病院や他介護施設などの相 談を行う。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居前、入居時情報をとり、希望を把握し検 討している。	家族の協力も得ながら、各担当者により、セン ター方式を一部活用したアセスメントを実施して おり、思いや意向の把握につなげるよう取り組 んでいる。毎月のカンファレンスの中で、個別の 検討を行い、本人本位の支援となるよう取り組 んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	コミュニケーションをとりながら昔の話や家 族等からの情報を傾聴し把握に努めてい る。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録等で本人の体調、体力 等を把握している		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	サービス担当者会議に家族の参加をお願い し話し合う。モニタリングについてケアマネ 月 / 1回担当スタッフが6ヶ月 / 1回毎月1 回のミーティングを行っている。	介護記録には、入居者の日々の言葉や様子 が丁寧に記録されている。毎月、モニタリン グを実施し、見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	上記ケアマネ担当スタッフミーティング等で 情報を共有し見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的に関わり、買い物など家族の要望で本人を連れて行き対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長が民生委員を兼ねている。運営推進会議などで情報を頂高齢者が入居していると言う事で安全や防火に関するポスターなど頂いたり防火に対する協力を得ている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科1回 / 2W 整形外科1回 / 4W同行、症状に応じて受診援助を家族と相談して行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診に、柔軟に対応している。管理者は母体医療機関での経験も豊富であり、日常の健康管理はもとより、医療関係者との連携を図りながら、本人・家族の安心につながるよう支援している。現状は歯科のみ往診となる。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で母体病院と連携をとり早期に対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時面会に行き本人の病院での生活状況等聴きグループホームでの生活環境など報告しリハビリや退院に向けての連携を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医に受診し早めの入院などの対応をしている。	居室は2階に位置しており階段を利用した移動となることや、玄関の段差等、ホームのハード面での状況を見学してもらい、入居時に納得してもらっている。一時的な対応としては、リビングに接する部屋を利用している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、研修等の勉強会を行っている。		

福岡県 グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル、研修や年2回の避難訓練を行っている。又、運営推進会議で協力体制のお願いをしている。	入居者全員の参加する避難訓練を、昼夜を想定して年2回実施している。緊急連絡網も整備され、町内会長の具体的な役割も明確にされている。災害対策に関する研修も実施されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面の声掛け援助に特にプライバシーを損ねないように対応している。	排泄時の声かけには特に留意し、さりげない対応となるよう配慮している。プライバシー確保やプライドの尊重等の研修にも参加し、入居者の尊厳に関する意識を高めるよう取り組んでいる。自室に鍵をかける入居者も多く、安全面にもさりげなく配慮が行われている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事、活動時に必ず声掛けし参加、不参加や髪型など自己決定して頂く。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、活動時に必ず声掛けし参加、不参加や髪型など自己決定して頂く。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、入浴時の更衣、美容室の髪型を本人に決めて頂く。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自らすすんで準備や片付けなど一緒に行う。	母体医療法人の管理栄養士が作成する献立を基に、入居者の方々と相談しながらメニューを決めている。入居者とともに買い物に出掛け、調理準備や後片付け等に個々に応じた役割を担ってもらっている。回転寿司や居酒屋、ファミリーレストラン等、外食を楽しむ機会も多い。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士の献立で調理し食分量、小分量を毎回チェックしている。		

福岡県 グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを実施、義歯の方には夜間洗浄剤を利用している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に対応し排泄の失敗を少なくするように1日数回声掛けや誘導で排泄を行っている。	カンファレンスの中で個別の状況・状態について検討が行われており、個別の対応が行われている。水分量・食物繊維・乳製品・運動等、できるだけ自然な排便となるよう配慮している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品、運動、食事の小分量などを心がけて対応している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の検温、血圧での健康管理を行い体調や様子や外出や行事後等希望で行う。	基本的には、週3回の入浴日を設定をしている。希望や状況にあわせて、シャワー浴や清拭にて対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の気分転換、軽い体操、散歩をしたり眠れない入居者に対しては就眠するまで見守りなど安心して眠れるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が薬効を説明し注意すべき要点を分かりやすく申し送り介護記録に閉じ月/1回のミーティングで勉強している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の事や園芸、料理などで分からない事を教わったりその人が得意な事は教えて貰う。金魚のえさやりは進んで行っている。		

福岡県 グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブを行う。家族や友人との外出をされて外食など楽しまれている。	希望や状況にあわせて、散歩や食材の買い物等に、日常的に出掛けている。ホーム前にある公園では子供達とふれあう場面もあり、また地域交流センターも近隣に位置している。弁当を持って近隣の花見を楽しむ等、季節やその時々希望にあわせた支援に努めている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には本人が管理している。本人の希望でしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話、手紙のやり取りを行っている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音やエアコンなど入居者の希望で行う。季節の花など飾り季節感を取り入れている。	室内空間は清潔感があり、家庭的な落ち着いた雰囲気がある。ソファやテレビのあるリビングから、食堂・キッチンへとつながり、入居者・職員の程よい距離感の中で、日々の暮らしが営まれている。介護保険以前に、社員寮を改修して開設されており、玄関や階段は手すりを設置し、そのまま利用している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で過ごしていただいている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ家具や思い出の物を持ってきて頂いている。	和室・洋室が用意されており、これまでの生活習慣や希望、状況に応じて選択することができる。毎日布団の上げ下げをする方、自室を出るときには必ず施錠をする方等、それぞれのライフスタイルを尊重している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		